

図書館だより

1995. 1. 10

第16巻4号

通巻132号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

「心の旅路」の四季 新雪の季節

柴田 義人

「雪消の季節」から始まった「心の旅路」の四季に、早くも「新雪の季節」が巡って来た。

「雪消の季節」で触れたように、1947年(昭和22年)私は、引揚・転校生として札幌一中(現在の南高)に編入学した。その札幌一中が明年100周年を祝うという。同時に北海学園は創基110周年を迎えることになる。北海学園は、1885年(明治18年)に開設された北海英語学校に基礎をおくと言われているからである。

最近、故中嶋健一先生(札幌商業高等学校長・北海学園事務局長)のご著書『「北海学園の父」浅羽靖』(昭和44年)を読み返してみた。著書後記で先生は、「初めから自分は才能が無いから立派な本は書くことができないとは知りつつも、記録だけは残したいとの一念で書いてみました。矢張りお恥ずかしいものしかできませんでした」と、先生のお人柄そのままに謙遜されているけれども、正確な記録を残そうという「一念」がひしひしと伝わってくる「立派な本」である。以下ご著書を忠実に辿ってみよう。

北海英語学校は、大津和多理校長のもとで、「3月15日豊平館において開校式を行い、140余名の生徒を教育していたが、すぐ50名くらいになり経営は決して楽ではなかった。さらに悪いことには、校長大津は札幌師範学校の先生をしながら、夜間は英語学校の経営にまで体力・気力を割かなければならなかったのが無理であったのであろう。病に倒れ、郷里仙台に帰らなければならなかった。」

そこで校長代理小平元芳などが、当時の札幌区長浅羽靖^{しづか}を校長として迎えるために努力し、就任したのが1887年(明治20年)6月3日のことであった。そして1889年(明治22年)1月18日、「札幌農学校入学志願者のための受験予備科設置を出願、同月25日、許可を受け」、続いて翌「明治23年11月2日中学科設置を出願し、同月20日

認可」というように順調に行くかに見えたのだが、1891年(明治24年)9月、札幌農学校教授新渡戸稲造を教頭とする、私立ながら正規の尋常中学に準ずる北鳴中学校が創設され、「入学希望者は私塾の英語学校に集まらずに北鳴中学校に殺到してしまって、英語学校の経営状態はさらに悪化した。」加えて翌明治25年5月4日夜の大火で校舎が類焼してしまうという悲運に見舞われ、「何とか学校らしい建物を建てて授業ができるようにしたのは、明治27年9月のことであった。」

ところで前述の北鳴中学校は翌1895年(明治28年)4月、札幌に公立尋常中学校が置かれることになり、札幌中学校となった。これが札幌第一中学校・札幌第一高等学校を経て、現札幌南高等学校へと引き継がれる。一方、北海英語学校も「学校関係者の苦悩の連続に耐えてきた努力が報いられ、陽の目を見るときがやって来た」。1901年(明治34年)5月16日、中学校令に基づき道庁の認可を得た。北海学園では、この日を開校記念日と定めている。

北海学園の精神的な伝統として継承されている「不撓不屈」の精神は、1911年(明治44年)、浅羽靖の名で26カ条に示された学訓第8条の冒頭「道義に由りて発する所の勇に非れば真の勇と云うを得ず 真の勇者は不撓不屈万難を排して邁進し……」によるものである。新雪の季節のなかで、心新たに、創基110周年を迎えたい。

(1994.12.8)

(しばた よしと 経済学部教授)



図書館サービスの改善点について

図書館

図書館サービスの改善につきましては、これまでに利用者からのさまざまなご要望が寄せられておりました。それらのご要望一つ一つを利用者と関係機関との間に立って検討し、図書館サービスのあり方や業務・組織体制の見直し、施設・設備の拡充整備方策を図書委員会等で協議しながら、実現への努力をしており、また今後も図書館が利用者へのサービスを改善するための歯車として重要な役割りを果たしていかなければならないと考えております。

そこで、さきに要望・要請のかたちで学生・院生代表から問い合わせがあったことについて、検討の結果お答えした『図書館改善要望書に対する回答書』の中から、とりわけ利用関心度の高い開館時間、貸出冊数・期間などについての主要改善点を拾って簡単にご紹介してみたいと思います。

(要望) 開館時間の延長について

(回答) 開館時間延長を求める声はすでに二部学生自治会から寄せられていました。また、近年、大学院・学部の社会人入学者からも同様の要求が出されています。このたび、地下鉄東豊線「学園前駅」の開駅を契機として、とくに夜間就学者の利用の便に配慮し、次のとおり開館時間を本年10月24日より変更しました。なお、夜間就学者の講義終了後の図書館利用が可能になるような方策を引き続き検討中です。また、工学部分室の開館時間についても検討をすすめております。

1. 開館時間 月～土曜日：午前9時30分から午後9時00分まで(ただし、土曜日午後6時以降は閲覧のみ)
2. 1階自由閲覧室の利用時間 月～土曜日：午前9時30分から午後10時30分まで
3. 返却ポストを月～金曜日は午後9時以降10時30分までの間に、土曜日は午後6時以降10時30分までの間に1階自由閲覧室内部に設置

に設置

(要望) 貸出冊数について

(回答) 要望どおりの冊数を満たすことはできませんが、今後、貸出、返却業務の省力化を図りながら、現行の貸出冊数と貸出期間を次のとおり変更します。

1. 貸出冊数 3冊(現行は2冊)
2. 貸出期間 図書は15日間(現行10日間)
雑誌は10日間(現行のまま)
3. 実施日 平成6年12月1日より実施

特定分野の図書を一人の利用者に長期間貸出することによって、他の学生がそれらを利用することができなくなることには配慮しなければなりません。利用頻度の高い図書は複本を増やすなどの準備が必要です。最近の学部・学科増に伴い、図書資料が急速に増加し、かつ学生数、図書館利用者数、図書貸出冊数も増加しており、貸出・返却サービスを行う図書館員の負担が非常に大きくなってきていることにもご理解頂きたいと思います。

(要望) 特別長期貸出制度の冊数も7冊までにすることについて

(回答) 「特別長期貸出制度」による貸出冊数は、現行の5冊を7冊までとし、貸出期間は従来どおり1カ月とします。実施日は平成6年12月1日よりとします。

以上にご紹介したような要望点およびお答えの事例は、どこの大学図書館にでもあるという平凡な事例でしかないのかも知れません。しかし、こうした事例を掲げましたのも、より良い大学教育のために、より良い図書館サービスをめざすという、いわゆる点検・評価・改善の必要性について、深く考えなければならないと、常々感じているからであります。

大学とは図書館である

寺田悦子

当学園の職員として、私も何度か本大学の図書館を利用しています。このたび、「図書館だより」編集部より機会を与えられましたので、私が留学したイギリス、University of Reading (Readingはレディングと発音します。)での図書館に関する体験を書かせていただきます。

留学中の数々の思い出の中でも、1日の大半を過ごした図書館での経験は忘れることができません。キャンパスは世界各国から来た大勢の学生で溢れており、そのほぼ中央に図書館がありました。地理的にも機能的にも、図書館が大学の中心でした。

館内は非常に静かで、話し声が聞こえるのは、貸出・返却などの窓口、コピーコーナーのある1階のみでした。筆記用具、貴重品、持参した図書以外一切持ち込み禁止、本当に勉強したい人だけが来るところ、それが図書館でした。静寂の中の緊張感と学生たちの真剣な表情が、館外とはまるで別世界の雰囲気をつくりだしており、試験期間前にはそれが極限に達するようでした。セミナーや論文作成中心で講義の少ない大学院生の勉強は、ある意味では孤独なものでしたが、館内のこの雰囲気が、孤独感を忘れさせ、否応無しに勉強に集中させてくれたものです。学生たちは皆一人で、何人かの友人同志でいる姿はほとんどありませんでした。

図書を探すには、カードカタログではなく、コンピュータを使いました。各階に数台設置され、開館中は常時使用でき、効率的で大変役立ちました。書名、著者名、項目名のいずれからでも、図書に関する情報を瞬時に画面照会することができました。そのため、書架を探して手にとって内容を確認したり、司書の方に質問することなく、自分の探している図書が本当に必要なものであるか、貸出状況等が大体わかるのです。

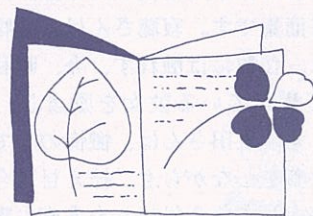
読みたい図書が貸出中の場合は予約を受け付けていました。返却日前であっても、一定期間の経過後に他の学生から貸出し予約が入った場合、10

日以内に返却するよう、図書館から返却依頼の通知が来ました。貸出し予約をすると、大抵2、3日でその本を手に入れることができましたので、逆に自分が返却依頼を受けた時には、すぐに返すようにしました。全階開架方式ですが、1階には一般の図書とは別コーナーに、必読の文献として特に指定されたり貸出し頻度の高い図書が収められており、貸出期間は1日間でした。翌日午前10時までには返却しなければ罰金が課せられ、1日遅れるごとに倍増する規則でした。

図書への書き込みは頻繁に見られ、閉口しましたが、時にはそれも悪くありませんでした。参考文献リストに必ず挙がるような図書の中には、同じ箇所は何種類ものアンダーラインと何か国語かの書き込みがあり、おかげで読まずとも(?)重要な部分が一目瞭然でした。ある日、ゼミ論のための文献を読んでいて、なかなか先へ進めず困り果てていた私は、突然、日本語の書き込みに初めて出会いました。「先が見えぬ。」まさに私の心境そのものでした。過去にも同じ本で苦勞した日本人がいたと思うと勇気づけられたようで、気を取り直して読み続けたことを覚えています。

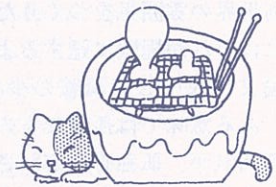
図書館での時間を通して、悪戦苦闘しつつも学ぶことの楽しさを改めて強く実感し、大学生活における図書館の重要性を深く認識しました。図書館とは建物ではなく、主体である学生が自主的な研究を行う場であり、そのような学生が集うところこそ大学だと思います。図書館での日々の中で多くの学生が学ぶことの喜びを自ら体験して欲しいと思うと共に、そんな図書館、大学であることを願います。

(てらだ えつこ)



経済文明論 産業社会の制度的起源を探る 坂井素思著 1994
 四カ国語経済用語辞典 英・仏・独・日 フリッツ・J. デ・ヨング編著 1993
 現代経済学の諸相 岡山商科大学法経学部創設記念論集 岡山商科大学法経学部創設記念論集編集委員会編 1994
 解説ミクロ経済学 寺崎克志著 1994
 経済・経営統計 黒澤一清編著 1994
 入門経済学ゼミナール 西村和雄著 1990
 経営・経済のための時系列分析と予測カルマンフィルタ適用を中心として 杉原敏夫著 1994
 経済学は自然をどうとらえてきたか ハンス・イムラー著 1993
 戦後経済学を語る わが青春の経済学 基礎経済科学研究所編 1993
 消費者問題論 小木紀之編著 1994
 税務と会計 武田隆二著 1994
 市場と計画の社会システム カレツキ経済学入門 M.C. ソーヤー著 1994
 個別資本運動説の新展開 大淵素行著 1994
 日本経済史 原朗著 1994
 日本経済の解明 伊藤史郎 [ほか] 著 1994
 現代中国経済とアジア 市場化と国際化 河地重蔵 [ほか] 著 1994
 インドネシア経済史研究 植民地社会の成立と構造 宮本謙介著 1993

20世紀の真実 1-14、解説書 1987
 1. 第一次世界大戦 — 1914-1918 —
 2. 十月革命 — 帝政ロシアの崩壊 —
 3. 独裁者たち — ファシズムの台頭 —
 4. ゲルニカ — スペイン内戦 —
 5. 第2次世界大戦 — 1939-1945 — 1
 6. 第2次世界大戦 — 1939-1945 — 2
 7. 第2次世界大戦 — 1939-1945 — 3
 8. エクソダス — イスラエルの誕生 —
 9. ガンディー — 苦難の独立運動 —
 10. ブタベスト — 戦軍に守られた共産主義 —
 11. ド=ゴール — フランスの栄光を求めて —
 12. 極東 — 日本と中国~それぞれの選択 —
 13. ケネディー — アメリカの夢 —
 14. 激動の20世紀総集編
 産業構造の転換と地域経済 鈴木茂編著 1993
 日米関係の構図 相互依存と摩擦 安哲哲夫 [ほか] 編著 1992
 世界経済の分裂と統合 渡部福太郎著 1994
 EC市場統合と企業法 オットー・ザンロック編 1993



気楽に読もう

瀬戸内寂聴 永田洋子往復書簡 一愛と命の淵に—
 (副武書店 1993)

1970年、連合赤軍事件で、革命の名のもとに仲間14人を殺害した罪で、死刑が確定(1993)した永田洋子さんと作家で僧侶である瀬戸内寂聴さんとの往復書簡集です。寂聴さんは、唯物論者の永田さんには、仏教には触れず、今、昭和の歴史の証人として生きている彼女を励まし、暖かく見守っています。永田さんは、懺悔の心で総括し、犠牲者の供養をしながらも、控え目に今生きていることに感謝している気持ちを素直に書き綴って

います。

11月中旬の新聞に、現在の死刑制度についての世論調査の結果が載っていました。半数以上の方がこの制度を容認しています。被害者、遺族の心情、そして、社会に及ぼす影響を考えてのことと思います。そして12月1日に2人の死刑の執行がありました。

図書館にも、死刑制度についての図書が、何冊かあります。歴史的経過や、世界の現状、冤罪、人権問題として、いろいろな角度から、書かれています。とても気楽には読める図書ではありません。しかし、学生のみなさんに、法律の死刑制度ではなく、“命”について考えながら読んでいただきたいと思います。(K.O)

検証・論理なき「政治改革」 森英樹著 1993
 民主主義の政治学 山本佐門著 1994
 戦後政治と政治学 大岳秀夫著 1994
 平成官僚論 大前研一著 1994
 地方行政官僚制における組織変革の社会学的研究 田中豊治著 1994
 日本の外交政策 1869-1942 霞が関から三宅坂へ I. ニッシュ著 1994
 労働基準法の知識 中央経済社編 1994
 新労働時間法制の理論と実務 伊藤庄平著 1994
 現代日本の法的論点 国際社会の中で考える 堤口康博 [ほか] 編 1994
 (入門) アメリカ法の調べ方 モーリス・L. コーエン著 1994
 比較憲法入門 阿部照哉編 1994
 人類論考 今村成和著 1994
 憲法の国会論議 日本国憲法資料集憲法論議編 樋口陽一編 1994
 ファンダメンタル憲法 佐藤幸治 [ほか] 著 1994
 ダイシーとデュギー 和田英夫著 1994
 民法提要 一債権総論 第4版 松坂佐一著 1982
 不動産取引の基礎知識 上巻 塩崎勤著 1994
 請負に関する実務上の諸問題 後藤勇著 1994
 現代の不法行為法 法の理念と生活世界 棚瀬孝雄編 1994
 家族法 星野英一著 1994

中国家族法の諸問題 現代化への道程 加藤美穂子著 1994
 商法 服部栄三編 1994
 ゼミナール会社法入門 岸田雅雄著 1994
 会社法を学ぶ 制度と実態を結ぶ基本テーマの解説 長浜洋一編 1994
 会社法読本 田村諱之輔編 1994
 現代保険・海商法 30講 山野嘉朗著 1994
 現代の経済犯罪と経済刑法 西山富夫編 1994
 刑事裁判の空洞化 改革への道標 石松竹雄著 1993
 不正競争防止法概説 小野昌延著 1994
 不正競争防止法 逐条解説 1994
 国際機構の機能と組織 新しい世界秩序を構築するために 渡部茂己著 1994
 新しい海洋法 船舶通航制度の解説 日本海運振興会国際海運問題研究会編 1993
 現代国際人権の課題 宮崎繁樹編 1988
 国際関係法 連帯する国際法と国内法 奥脇直也著 1994
 フランス民事訴訟法の基礎理論 徳田和幸著 1994
 訴訟条件論の再構成 公訴権濫用論の再生のために 寺崎嘉博著 1994



気楽に読もう

『超日常観察記』

岡本信也・康子著 (情報センター出版局)
 「日常のあらゆるモノ・コト・ヒトを残らず採集してしまいたい」この本は、そんなとてつもない欲望が生んだ観察記録である。

著者夫妻は自らの仕事を孝現学という。聞き慣れない言葉だが、ちょうど考古学者が古代の遺跡を発掘するように、孝現学者は現代の表層部を採集し、人の生活・風俗を観察するのだそうである。何やらムズかしいが、つまり、日本全国津々ウラウラにまめに足を運んで、日頃誰も気にとめな

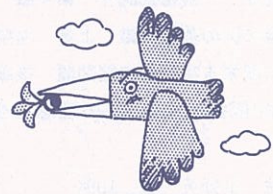
いようなモノをひたすら採集、分類、記録することであるらしい。例えば、地下鉄の乗客の視線や街行くおばあさんの履物あれこれなど、90 近くの事柄が楽しい図解付きで記述されている。この本を読むと、今まで気がつかなかったものが見えてきて、自分もついキョロキョロと周りの物を観察したくなってくる。なかなか面白い本です。ぜひ読んでみて下さい。

(Y.K)



自然哲学再興・ヘルメス哲学の秘法 ジャン・テスパニエ著 1993
 哲学・技術・想像力 哲学論文集 アダム・スミス著 1994
 ロールシャッハ・テスト Q & A 岡部祥平著 1993
 魔術と占星術 アルフレッド・モーリー著 1993
 占星術または天の聖なる学 マルクス・マニリウス著 1993
 史料が語る江戸の暮し 122 話 日本風俗史学会編 1994
 素顔のアインシュタイン マイケル・ホワイト著 1994
 世界地図を読む 図説世界地理 高橋伸夫 [ほか] 共著 1993
 カンボジア苦界転生 大石芳野フォト・ドキュメント 大石芳野著 1993
 ものの見方・欧米と日本 吉田和男著 1994
 アムネスティ人権報告 1 現代世界の人権 アムネスティ・インターナショナル日本支部編 1992
 世界人権ハンドブック チャールズ・フマーナ編著 1994
 エイズ学習のすすめ 山本直英編著 1993
 現代アメリカの大学 ポスト大衆化をめざして 江原武一著 1994
 中世の結婚 騎士・女性・司祭 ジョルジュ・デュビー著 1994
 フランソワとマルグリット 18 世紀フランスの未婚の母と子どもたち 藤田苑子著 1994
 かぎりなく死に近い生命の思想、死の思想 荒俣宏責任編 1994

電子図書館 長尾真著 1994
 速習線形代数 高木斉 [ほか] 共著 1994
 動物への配慮 ヴィクトリア時代精神における動物・痛み・人間性 ジェイムズ・ターナー著 1994
 応用物性化学 内島俊雄編著 1994
 高分子材料化学 小林四郎編著 1994
 このすばらしき生きものたち カンブリア大爆発から人工生命の世紀へ 荒俣宏編 1994
 エコロジーの新秩序 樹木、動物、人間 リュック・フェリ著 1994
 ガウディの作品 芸術と建築 ファン・バセゴダ著 1985
 わかりやすいコンピュータ用語辞典 1993
 アート・ウォッチング 現代美術編 中村英樹執筆 1993
 西洋美術史 高橋秀爾監修 1993
 国際マナーマニュアル 小学館編集部編 1994
 世界の民族地図 高崎通浩著 1994
 「孫子」に学ぶ弱者の勝利法 北浜流一郎著 1993
 闇よりおのずからほとぼしる光 マルク=アントニオ・クラッセラーム著 1994



気楽に読もう

肉体百科

群ようこ著 (文藝春秋 1994)

ここだけの話だが、昔、我家御用達の盲目の按摩さんが母に、「今度生まれてくる子は、背中にお父さんと同じほくろがあって、そのほくろがこの子を守ってくれますよ。」と言ったそうなの……。

というわけで、私の背中にはただならぬほくろが存在している。時にはかゆくて、とれそうになるほどかきむしってしまい、もう私を守りたくないんだとさえ感じられるが、今だ健在だ。

このように、誰もが肉体のドラマを持っている。

そしてこの「肉体百科」は、なぜか暗黙のタブーとされがちな肉体のドラマを、おもいっきり明るく覗かせてくれるのだ。

ちなみに私は、気がめいると群ようこさんの本を読む。不思議に気が楽になるからだ。たとえばある京都のお坊さんが、「今頑張らないで、いつ頑張る」と説いたと聞きウムウムと思ったが、この本の中では、「明日できることは、今日やるな」と書いてあった。これまたウムウムである。たぶんこのへんが、私の安定剤となる要因ではないだろうか。

(N.A)

- 学校教育とコンピュータ 赤堀侃可著 1993
- JICST 科学技術用語シソーラス 1993 年版、別冊、索引
日本科学技術情報センター編 1993
- 化学総説 21 季刊 マイクロポーラマ・クリスタル 1994
- 重力波天文学への招待 藤本真克著 1994
- 世界の自然遺産屋久島 田川日出夫著 1994
- 環境保全関係法令集 1、2 環境庁長官官房総務課監修著
1994
- GA(Global Architecture) 72 ルイス I. カーン 1994
- 建築基本法令通達集 北海道 全 建設省住宅局建築指導
課監修 1993
- 復元大系日本の城 1～9 1992-1993
1. 北海道・東北
 2. 関東
 3. 北信越
 4. 東海
 5. 近畿
 6. 中国
 7. 南紀・四国
 8. 九州・沖縄
 9. 城郭の歴史と構成
- 空間の生と死 アジャンターとエローラ 武沢秀一文・写
真 1994
- アメリカの住宅建築 1～3 1994
1. ヨーロッパの伝統
 2. 様式

3. 多様化の時代
- 日本の文様 1～18 1986～1989
1. 菊
 2. 扇
 3. 松
 4. 桜
 5. 蝶
 6. 竹
 7. 梅
 8. 唐草・蔓
 9. 牡丹
 10. 椿・藤・柳
 11. 菖蒲・百合
 12. 桐
 13. 鶴・鳳凰
 14. 果樹
 15. 楽器・調度
 16. 秋草・楓
 17. 青梅・格子
 18. 動物
- 世界の文様 1～5 1991-1992
1. ヨーロッパの文様
 2. オリエントの文様
 3. 中国文様
 4. インド・東南アジアの文様
 5. アメリカ大陸の文様
- 南極大陸 白川義員作品集 上巻 超絶の天然 白川義員
著 1994



気楽に読もう

絵のない絵本

アンデルセン (アネルセン)

都会の屋根裏部屋に引越してきた、貧しい絵かきの若者は、一人の友も、あいさつをかわす知りあいの顔さえもなく、若者の寂しさをなぐさめてくれたものは、窓からみえたまるい月だった。月は毎晩のように部屋を訪れては、あちこちで見てきた事を話してくれることになり、その物語を書きとめたのがこの絵のない絵本です。

第一夜から第三十三夜まで、短い物語が語られる。月が見てきた話だけに、その範囲は全世界に

またがり、インドや中国、スウェーデンの話もあれば、フランス・ドイツ・イタリアなどヨーロッパの国々の物語もある。

三十三夜の物語は、どの話をとっても人間の悲しみに深くかわり、興味深く読めます。

絵のない絵本は 1839 年、アンデルセン 34 歳の作品です。

(K.H)



図書館サービスの再構築 電子メディア時代へ向けての提言 M.K.バックランド著 1994
 ある図書館相談係日記 都立中央図書館相談係の記録 大串夏身著 1994
 図解電子出版 鎌田博樹著 1993
 宇宙 伴戸昇空訳 (ビジュアルディクショナリー 12) 1994
 桐 Ver.5 操作ハンドブック 岩崎治著 1994
 Works 3.0 for Windows ハンドブック 野田晃著 1994
 Visual C++ハンドブック 川崎盛美著 1994
 花子 Ver.3 ハンドブック 越川彰彦著 1994
 理性・真理・歴史 内在的実在論の展開 ヒラリー・パトナム著 1994
 世界神話事典 大林太良 [ほか] 編 1994
 ケルト人 蘇るヨーロッパ〈幻の民〉 クリスチアーヌ・エリュエール著 1994
 統一ヨーロッパへの道 シャルルマーニュから EC 統合へ デレック・ヒーター著 1994
 想念が社会を創る 社会的想念と制度 コルネリウス・カストリアディス著 1994
 サルの行動発達 南徹弘著 1994
 マレーヴィチ画集 マレーヴィチ [画] 1994
 ウォーホル画集 ウォーホル [画] 1990
 諷刺画像 (カリカチュア) のヨーロッパ史 高橋憲夫編 1994
 ハーバード大学視覚芸術センター片山利弘教室 4-8カ

月間のグラフィックデザイン演習 一片山利弘著 1993
 ツール・ド・フランスを追いかけて 三宅寛著 1991
 妖精の女王 エドモンド・スペンサー著 1994
 巡礼たちが消えていく ジョン・フラー著 1994
 愛はあまりにも若く ブシュケとその姉 C.S.ルイス著 1994
 オーランドー ヴァージニア・ウルフ著 1992
 心に野性を リック・バス著 1994
 中世の遺贈 フランス中世文学への招待 アルベール・ポフィレ著 1994
 狐物語 鈴木寛 [ほか] 訳 1994
 古伝説 11-13世紀 ガストン・ザンク著 1994
 フランス語を12の3 内藤陽哉著 1994
 フランス文法ゼミ 田村達郎著 1994
 百人一首評解 石田吉貞著 1988
 御所本百人一首抄 宮内庁書陵蔵慶永13年寫 久曾神昇編 1991
 小倉山庄色紙和歌 百人一首古注 有吉保校注 1975
 100人で鑑賞する百人一首 武田元治編 1973
 E.M.フォースター著作集 3 ハワーズ・エンド 1994
 ローマの愛 ビーエル・グリマル著 1994



気楽に読もう

「自然と人生」

徳富蘆花 (岩波文庫)

豊平川の川面の朝夕、季節の変化に足をとめ、その源流にある恵庭岳、漁岳に視線をのぼすことも、東豊線の開通によって、私にはなくなった。

徳富蘆花の『自然と人生』は「自然を主とし、人間を客とせる小品の紀文、短編の小説」を集めたものとは、著者蘆花の言葉である。蘆花の一高弁論部での講演「謀叛論」によって、彼を記憶する人もいると思う。

明治20年代末、マクカリヌプリ、雌阿寒岳、利

尻山山頂での高層気象観測をなしどけ、本道の気象観測の整備を遂行した人物の軌跡を追う作業のなかで、彼が愛読し、娘たちに与えた書物の1冊が、この蘆花の『自然と人生』であることを知った。その人物の人生の軌跡を解明する手懸かりを得るべく、この『自然と人生』を読むなかで、「風は人生を過ぎゆく声である」こんな言葉にも出会った。離道後我国の国勢調査のさきがけである台湾戸口調査をなしとげた人物の心象を過ぎる風の声を聞く作業を、これからもつづけたいと思っている。

旅立つ人への思いやり

二 通 信 子

現在日本には2万人以上の中国人留学生が大学や短大などで学んでいる。北海道にも本学の留学生も含めて400人近い中国人留学生が来ている。ここに紹介する任さんれんも電気工学の勉強のために日本へやってきた中国人留学生である。

初めて任さんに会ったのは市内の中国語教室だった。もともと夫の揚さんが教えていたのだが、大学院での研究が忙しくなって、妻の任さんに交替したのだ。揚さんより遅れて日本に来た任さんはまだ日本語が不十分で、クラスの日本人の前でとても緊張していた。でも私達生徒は任さんの美しい発音を聞くのを毎回楽しみにしていた。

その後、私と任さんは日本語と中国語の交換教授をすることになった。大学院の修士課程に入った任さんは大学院の研究室での会話や、ゼミでの討論、専門の文献の読みとりなどに苦勞していた。

大学のそばの任さん夫妻のアパートで週1回の勉強が始まった。その部屋には小さな女の子の写真が飾ってあった。任さんはその子を生後半年で中国の両親に預けて夫のいる札幌に来た。任さんはお子さんのことはあまり話さなかったし、私もふれなかった。

あるとき任さんに奨学金のお礼の手紙を日本語で書いたので直してほしいと頼まれた。そこには支援団体への感謝の言葉とともに、幼い娘を残して来ていることについての心の揺れ、子どもへの愛情、そしてそれだけに今自分が日本での困難に負けることはできないという決意が書かれてあった。離れて生活したことをいつか娘が理解してくれるように、今を頑張りたいという任さん。いつも穏やかな任さんの心の奥に、母親としての複雑な思いが渦巻いていたことを知った。添削の手を入れることが申し訳ないような気持になった。

私達は日本語や中国語の練習に、お互いの国のことや学生時代のこと、大学での研究、そして日々の暮らしなど様々なことを話し合った。

いつだったか、日本のお盆の話になった。千葉

の私の家ではお盆が近づくと、仏壇の前にマッチ棒で足を付けたきゅうりや茄子を並べた。亡くなった人達がそれに乗って家へ帰って来るのだと母に教えられた。8月13日の夕方になると、あちこちの家から迎えの人が出る。家並が途切れた辺りで提灯に灯を点し、亡くなった人々を出迎え家まで連れてくるのだ。夕暮れの中に、提灯の明りがあちらこちらで揺れていた。家では母や祖母が「お帰りをなさい。遠くから疲れたでしょう」と、私の後ろにいる姿の見えない人々に優しく声をかける。亡くなった人々はそうやっていつまでも家族の心の中に生きていた。

乏しい中国語に絵と筆談を交えた私の話を聞いて、任さんは中国のこんな話をした。——任さんの故郷では、葬儀のとき、亡くなった人のために「お金」を燃やすのだそうだ。もちろんそれは本物のお金ではない。「あの世」へ行くにも途中でお金がかかる。無事に「あの世」へ着けるように、本物そっくりに作ったお札お札を焼いて天に届けるのだそうだ。「三途の川」の渡り賃だろうか、聞きのがしてしまった。

野菜の「馬」や紙の「お金」、ままたごのような他愛なくみえる習わしの中に人の心の優しさが隠れている。かつての日本にも中国にも、こうした素朴な習わしを、心を込めて受け継いでいた大人達がいた。もちろん今でも。しかし私自身はどうか。目に見えない者へのこうした優しさを、次の世代に伝えているだろうか。任さんと話しながらそんなことを思った。

任さんと私の勉強はお互いの研究や仕事の都合で1年あまりで終わった。任さんはその後中国からお子さん呼び、保育園に通わせながら、博士課程で勉強を続けている。任さんの日本語はあれからさらに上達したことだろう。私の中国語は相変わらずでちっとも進歩していないが。

(につう のぶこ 教養部講師)

中国の最新ラヴソング

大江 敏 美

歌の文句だから「Let you kiss me thoroughly enough」などといっても通用するが、ただ今中国での最新流行歌曲「織夫の愛」(チェンフー・グ・アイ)の最後の歌の文句が上述の『讓你親個够』というもので、親はto kissという動詞である。

現代中国の沿岸部などは都市化しているとはいえ、非沿岸部など農村人口は8割を占める。モーターのような機械文明から離れている水郷地帯では、船を上流に動かすために、引き綱を肩にかけて川岸を歩いて進む仕事をする人がいる。彼らを織夫という。ひとりの織夫とその恋人とのやりとりが、この歌の主題である。口で歌われるほか、旅客機、バス、火車(汽車のこと)のなかでもバックグラウンド音楽として盛んに流されている。乙女は船のへ先に座り、その恋人の若者は船を綱で引いて進む。綱を通して愛が通いあう。そのメロディーが素晴らしい。

この曲を入れて14曲で1本となつたテープは「94...中・港・台龍鳳争覇」として店の目玉商品となっている。私が食事をした洛陽の中華料理店の隣の店で買ったこのテープには中国の歌が4曲、香港の歌が3曲、台湾の歌が7曲という内容だ。ナツメロ調のほかに、ロック調、演歌調、などもある。政治の世界では台湾をめぐる厳しい外交が存在するが、歌の世界でいうと、台湾の歌も大陸本土では無差別に愛唱されており、歌から見る限り改革・開放は後戻りできない感じがする。日本の「四季の歌」、「北国の春」なども中国人に受けている。北京で案内してくれた外国語大学3年生の女子学生が、日本語ガイド研修生の身分で、待ち時間などを利用していろいろと中国の流行歌の説明し、筆者を啓発してくれた。この世代の者にとって、日本のカラオケにある中国歌曲「何日君再来」が政治的に中国で賛否の嵐に巻き込まれたという過去のことは覚えていなかった。(中蘭英助「何日君再来」河出書房新社に詳しい)

南船北馬というように、南の方は水運が盛んだ。織夫は引き綱を肩にかけて船を引く。一步進む毎

に綱を強く引くために頭を深く下げて、前屈みにならなければならない。その引き綱を伝わって恋愛(情愛)がふたりの間を往復する。

(男) 妹妹你坐船頭 哥哥岸上走
恩恩爱愛 織繩蕩悠悠

(女) 小妹妹我坐船頭 哥哥你在岸上走
我倆的情 我倆的愛
在織繩蕩悠悠
你一步一步叩首 沒有別的祈求
只盼拉住我妹妹手 跟你并肩走

といのが、14行の歌の初め7行である。試みに和訳してみると、

(男) いとしお前はへさきに座り
おいらは進む川の岸
情情愛愛 ゆったりゆらゆら引き綱は

(女) うちはへさきに座り
あんさん進む川の岸
ふたりの情け、ふたりの愛
ゆったりゆらゆら引き綱は
一步一步あんさん進む前屈み
うちの望みはただひとつ
手をつないであんさんと
肩を並べて歩くこと

これに続く7行は、あんさんが汗水を流し、うちの心に涙が流れる、お日様が西の山に沈んでからlet you kiss 思う存分という内容。

中国とは気候も地形も異なるメキシコから50年も前に世界的に広がり、今やラテン音楽のスタンダードになっている「ベサ・メ・ムーチョ」Besame mucho (Kiss me much) は、『多分明日は遠くに行ってしまうので、今あなたの瞳にうつる私を見たいの……』という内容で、ギターがよく合う。それと違って水気が多く田園風景に囲まれた「織夫の愛」の歌詞とメロディーは中国人好みといえようか。中国ではその周辺を巻き込み歌曲は隆盛の傾向にある。このテープと歌詞は図書館に備え付けてあり、借り出して鑑賞できる。

(おおえ としみ 教養部教授)

トロイメライが虹として見上げた

2人の天彩ヴェルフガング

暗く寒いドイツの冬。

ことさら光を求めて止まないゲーテにとってこの季節は耐え難い日々であった。ただ一つの救いは、宮廷でモーツァルトのオペラがあることだった。宮廷楽長はモーツァルトの弟子スロバキア出のフンメルだった。

耐え難い冬の気分は1854年2月のロベルト・シューマンにも言えた。彼は厳寒のラインに身を投げる。ただちに救い出されたものの生気を失っていたのは言うまでもない。

それから1年。彼は病室に伏して降る雪をほんやりとながめていた。そこへ夫人が入って来た。

「さあさあ元気を出して！ pomme de terre
でもいいが、炊き立てですよ。バターも一杯。」

この夫人こそ晩年のゲーテの前でピアノを披露したあのクララ・シューマンだった。ポム・ドゥ・テールとはフランス語で「じゃがいも」（大地のリング）のことである。

「うん、だいふ気分もいい。今夜は久しぶりに君の歌でも聴きたいくらいだよ。」

「じゃあ、モザールの『すみれ』はいかがでしょう。」

モザールとはフランス語でMozartのことである。フランス語は語尾の子音を発音しないので、こういう発音になる。クララ・シューマンは、フランス仕込みの洗練された言葉を放った。

「そうか。モザール!? 彼は『大地のリング』そのものだね。」

「そうかしら。どうしてですか？」

「甘いんだよ。じゃがいもの味のように。ゲー

シューマン	最終回	野バラ愛し すみれ想い	ことほぎやまず ゲーテ
-------	-----	----------------	----------------

テがはちみつよりも甘い音楽と言ったモーツァルトの音楽を食べていたのでなかったかね。だからあの長寿をまっとうしたのさ。モーツァルトはまさしく命の妙薬なのだ。」

クララ・シューマンは知っていた。ロベルト・シューマンの苦悩がなんであるかを。それは『ファウスト』と格闘しつつにそれを作曲しえたものの、モーツァルトの域にははるかに達しなかったことを。彼女は言った。

「でも、あなたは立派に『楽しき農夫』だったじゃありませんか！ モーツァルトがそうだったように。」

ロベルト・シューマンもクララが言うように「とわの子供の心」を持っていた。

それにもう一つ。ロベルト・シューマンの苦悩はワーグナーだった。

フンメルなきあとのワイマール宮廷楽長の後任にはリストが就任した。彼は1850年に突如ワーグナーを演奏して人々を驚かせた。ワーグナーの妻をコジマと言った。彼女はリストの娘ではないか！

人は言う。音楽は気晴らしだと。そうではない。音楽は世紀を変える。ワーグナーがヒットラーを産み出したことを、この世紀は見たのだ。完

(M.K)

会議は踊る — 天才たちのもう一つの冬

ウィーンの冬。1815年2月。会議は踊っていた。Kongress tanzt。その雑踏の中を一声が響く。「ナポレオンがエルバ島を脱出したぞ！」。あわてふためいた諸侯たちは恋もなんのその国へ帰って行った。3月の春の光が天才ナポレオンを甦らせた。その光に誘われ一発も発つことなく3月20日パリに入る。しかし彼の前に立ちはだかったのはまたしてもあのロスチャイルド。「ユダヤ」の巨万の富はワーグナーを憎悪にかり立てる。この時から、トロイメライが愛したラインは「夜と霧」の時代へとつきすすむ。

4 技能の同時強化：異文化コミュニケーション能力

小林 敏彦

最終回は英語を使用した異文化コミュニケーション能力の習得について書く。異文化コミュニケーション能力は大きく分けて、言語能力と伝達能力の2つに分類することができる。言語能力とは言語そのものの知識と運用力のことであり、文法的に正しい文を創造したり、理解したりする能力のことである。言語能力は異文化コミュニケーション能力の必要条件であるが、十分条件ではない。いくら言語的に優秀でもその適切な場面に応じた使い方を知らなければコミュニケーションの目的を達することができないばかりか、誤解を招いたり、場合によっては自らの生命を危険にさらすことにもなりかねない。

努力して獲得した目標言語の言語能力と運用力を使用する場面で、話す相手、その目的、場所、時間、文脈に応じ臨機応変に使える能力が2番目の伝達能力であり、社会言語能力とも呼ばれる。この能力は一般の中学、高校、大学の英語のクラスではあまり積極的に教えられていないし、また教えづらい部分であり、個人の積極的な異文化との遭遇と独習が必要となってくる。すなわち卓上では習得し難い実地で習得される技能である。実地の予備訓練として具体的な学習法は以下の通りである。

1) 街角外国人インタビュー

これは街角を歩いている外国人に片っ端から英語を話しかけて英会話の練習をすることである。場所を慎重に選び、準備を万端に、そして相手の人格を尊重し失礼のないようにマナーを守ろう。相手が忙しいような人に無理やり会話の相手をさせたり、疲れている様子にもかかわらず話し続けたりしないように。また、安全な相手であるか見分けるのも大事だ。

2) 各種イベント交流会

日本国内でも各地で在日外国人や留学生を招いたシンポジウムや各種の交流会が催されている。語学の学習という観点からすれば、パーティーに参加する時はただ他人の会話を立ち聞きしているだけでは受信型能力しか開発されない。出席したら必ず誰かに話しかけることが大切である。全く知らない人に違和感なく話しかけられる雰囲気がパーティーにはある。また参加している時でも必ず学習しているという意識を忘れずに、新しい単語や表現、言えなかった表現は必ずメモを取るかに留めて、後で調べよう。

3) 海外旅行

英語修業のためには、アメリカ、カナダ、オー

ストラリア、ニュージーランド、イギリスなどの英語圏へ行くのがあたりまえと考えられているようだが、フィリピン、香港、シンガポールなど英語が公用語となっており第2言語としての英語として使用されている地域へ行くのもいい。こうした地域では英語を使う機会に不自由することはないはずである。

英語圏では近所の人の目や友人の目を気にすることなく思い切って英語を話すことができる。英語を話すのが当たり前の環境にるので、精神的にかなり解放された気分にある。また少々の文法的間違いや発音のまずさなど、気にならなくなり発話の技能が磨かれる。これは国内ではごく一部を除いては達し難い精神状態である。

4) 短期間海外語学研修

語学研修はホームスティのプログラムと一緒にになったものが多く、昼はESLの授業を取り、夕方から朝まで各家庭でゆっくりその国の家庭の雰囲気を楽しむ。しかしこうしたプログラムでは日本から日本人村をそのまま持ってきたような雰囲気があり異文化交流はおろかホームシックの傷を癒しあっている空気が多大に感じられる。日本人以外の、自分と同じように英語を外国語として学んでいる人と友人になった方がいい。異文化の交流で芽生えた友情や愛情の例は数限りないのである。

5) 海外留学

英語修業の極めつけは海外留学である。留学生たちは日本語を全く通さず直接英語で授業を受け、教科書も英語、先生の話す言葉も英語という環境で毎日、日本の高校生、大学生、大学院生が学習しているのと同じレベルの勉強をしている。日本にただで英語をマスターしようとしても、24時間英語が聞け、話す相手がいる環境にいる者に太刀打ちするのは難しいが、こうした日本国内で必死に勉強している人がその努力とやる気を失わないまま英語圏で暮したら何倍もの効果が期待できる。

以上の手法を組み合わせて英語修行に励んでいただきたいが、さらに詳しく実用英語の勉強法を学び、実践したい方は、小林敏彦/上野之江共著「使える英語への3週間強化便利事典」(明日香出版社)を一読していただきたい。第2言語習得の理論と具体的な学習法が散りばめている。それでは、またどこかで会いましょう アローハ)

(こばやし としひこ 人文学部講師)